

芦田川

府 中 地 区
介 護 支 援 専 門 員
連 絡 協 議 会
会 報 第36号

～がんばれ！ケアマネジャー～

府中地区介護支援専門員連絡協議会の皆様へ

府中市健康福祉部福祉課
課長 近藤陽子



今年度から本協議会監事を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様には、日頃より地域福祉の最前線に立ち、住民一人ひとりに寄り添った支援を展開していただいておりますことに、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

現在、人口減少や少子高齢化、価値観やライフスタイルの多様化などが進む中で、地域の関係性が希薄化し、8050問題やヤングケアラー、生活困窮といった複合的な課題が顕在化しています。このような状況では、行政だけで課題を解決するのは難しく、皆様のような専門職の方々との連携が何より重要であると痛感しております。

特に高齢化が進む今日、地域包括ケアシステムの深化・推進は急務となっています。ケアマネジャーの皆様には、利用者やそのご家族の複雑な課題に対し丁寧に調整を行い、住民が「幸せに暮らしたい」という願いに寄り添った支援を続けてくださっていることに、深い尊敬の念を抱いております。それこそが、福祉の本質であると言えるのではないのでしょうか。

私は日頃から、「福祉」とは安心・安全を実感できる環境を整えることであり、それが「地域福祉」として、住民のふだん（普段）の暮らしをしっかりと支えるもの、さらに言えば絶え間なく続くふだん（不断）の支えであると感じています。

今後も、ケアマネジャーの皆様と力を合わせながら、住民が安心して暮らせる地域づくりを進めていきたいと思っております。変わらぬご連携をお願い申し上げますとともに、本協議会の益々のご発展と、皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

府中地区介護支援専門員連絡協議会・記念講演会

(2025年6月20日)



2025年6月20日（金）に府中地区医師会と府中地区介護支援専門員連絡協議会の共催にて、医療法人社団西日本平郁会大阪北ホームケアクリニック院長白山宏人先生をお招きし、「ACPとか人生会議って何じゃろう？～もしバナゲームで体験してみようや～」の演題にてご講演いただきました。

講演の前半では、ACP（人生会議）の現状や取組みについてご説明して頂きました。本人が主体となり、気持ちを言語化し周囲がともにサポートしていくことが重要であり、無理に結論を出そうとせず「ともに考え、悩む」関わりが必要であると学びました。また、「調和」とはぶつかり合うことから生まれるという言葉も印象的でした。

講演の後半では、「もしバナゲーム」を体験しました。体験したことで、本人の望みは状況に応じて変化するものであり、その都度対話を重ねていくことが必要であることを感じる事ができました。

今回の講演で学んだことを今後のACP実践に役立て、よき伴走者を目指したいと思います。

（居宅介護支援事業所ゆうゆう 介護支援専門員 佐藤康人）

定例会研修

(2025年7月18日)

令和7年7月18日にリ・フレで開催された「地域生活定着支援センターの役割と機能」～更生保護と地域共生社会～研修に参加させていただきました。

恥ずかしながら、「地域生活定着支援センター」という名称をこの研修で初めて知りました。講師の三上和彦先生は、地域生活定着支援センターがどういう所で、どのような支援を行っているのかを、基本からわかりやすくお話しくださいました。

地域社会で暮らす障害のある方の不安や心配を解消し、安心をもたらす制度であり、今回は特に更生保護を中心に学びました。受刑者の中には知的障害や精神障害のある方が一定数おられ、出所後に住まいや仕事、お金、仲間など多くを失っている現実があり、その生きづらさが再犯につながっていることを知りました。それを防ぐため、センターの方が出所前から関わり、

地域で孤立することなく根付けようフォローアップをされていることを学びました。

VTRに登場した服役11回の男性の「信頼できる人がいることは自分にとってとても大きい」という言葉が特に印象に残りました。自分の居場所ができたこと、人と人との心の間に自分の心があると感じられるようになるまでの支援を行うのは、とても大変で尊い仕事だと思いました。今回、これまで知らなかったことを学ばせていただける大変良い機会となりました。



（府中市社会福祉協議会上下居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員 原田志保）

主任介護支援専門員更新研修の受講要件②に該当する研修

(2025年9月12日)

令和7年9月12日（金）リ・フレに於いて、日頃よりケアマネジャーの育成に深く関わられている社会福祉法人相扶会：荒木和美先生に「居宅介護支援事業所における主任ケアマネによる人材育成と支援のポイント」という演題で、居宅介護支援事業所のチーム作りについてご講演いただきました。

講演の内容は、良いケアを提供出来るチーム作りは、結果として生産性の向上に貢献するという事で、チームのパフォーマンスアップのためには管理者である主任ケアマネジャーが何に留意してチーム作りを進めるべきかという興味深い内容でした。

過去のリーダー像と違い、多様化した社会では人との繋がりを活かして問題解決を行い、その過程をオープンにするリーダーがチームメンバーの共感を呼ぶということでした。

また、会議においても話しやすい雰囲気作りを準備し、いい意見を誘導できるいい質問を心がけること、発言順やテンポ良い進行を心がけること、何よりも会議のテーマに対する答えを必ず出せることが重要とのことでした。

研修の最後に、これからのケアマネジャーの事務負担を軽減し、利用者やチームセッションの時間を作りだせるよう、ChatGPTに代表されるAIの活用は非常に有益ではないかということでした。

研修後は「チーム作りの留意点がわかり易かった」「AIの活用をもっと勉強して対人援助の時間を増やしたい」という意見が会場の参加者から聞かれました。

（備後の里居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員 山田昌宏）



令和7年度 府中地区介護支援専門員連絡協議会役員

会長：内藤 賢一（府中地区医師会 会長）

府中地区ブロック ブロック長：平門ひとみ

副会長：平門ひとみ

（福山市北部地域包括支援センター）

監事：近藤 陽子（府中市福祉課 課長）←R7.4～

幹事：藤岡 大助（府中地区歯科医師会）

信岡 紀邦（ジョイトピアしんいち）

事務局：宮崎 美春（府中地区医師会）

<新市地区（◎地区長）>

◎角田 堅吾（福山市地域包括支援センター新市）

池田 岸陽（ジョイトピアしんいち）

近藤 洋之（居宅介護支援事業所リーフ新市）

佐藤 康人（居宅介護支援事業所ゆうゆう）

手島 香子（居宅介護支援事業所ジョイトピアおおさ）

中塚真奈美（てらおか居宅介護支援事業所）

<駅家地区（◎地区長）>

◎長谷川佳子（福山市北部地域包括支援センター）

石田 一至（ホープ居宅介護支援事業所）

植村 美香（居宅介護支援事業所アリス福山北）

佐藤美由紀（福山市北部地域包括支援センター）

松本 美喜（小島病院）

山田 昌宏（備後の里居宅介護支援事業所）

（昇順）

※任期は2年（令和6年4月～令和8年4月）

<府中・上下地区（◎地区長）>

◎内海 美絵（セイフティー信和居宅介護支援事業所）

新井 教夫（翁仁会居宅介護支援事業所）

石口 由美（府中市地域包括支援センター）

内海佳寿美（居宅介護支援事業所ゆうゆう高木）

小川 潤子（介護老人福祉施設あいあい）

小川 征志（介護医療院みのり）

武田 佳代（府中地区医師会ふちゅう居宅介護支援事業所）

長谷川和子（府中市民病院）←R7.8～

原田 志保（府中市社会福祉協議会上下居宅介護支援事業所）

原田 玉実（居宅介護支援事業所府中静和寮）

新しい会員事業所紹介

《テル・ケアプランサービス》



皆様こんにちは、テル・ケアプランサービスと申します。H26年10月に開業、一人ケアマネで始めましたが現在は常勤2名・非常勤1名で営業しております。

テルとはtellme：お話ししましょう。という意味で、できるだけ色々なお話をすることでお互いがうちとけ、益々お話ができる関係を作りたいことを心がけています。問題解決というより思いをお聴きすることだけで満足していただけることも多いですね。幸いなことに私の事業所スタッフは地元出身で年齢的にも利用者様に大分近づいてきたため話題には事欠かないことが強みかと思います。これからも関係各所全ての方との関わりを密に持つことで良い支援が行えるよう努めてまいります。よろしくお願いします。

《ケアプランセンターFlower's》



R6年3月に開設し、社会福祉士、介護福祉士、看護師の資格を有した女性2名・男性1名が在籍しています。要介護度や疾患にかかわらず、利用者様が住み慣れた地域で、生きてこられた歴史やその方が望む生き方を大切にしながらケアプランの作成・提供をしております。また、地域の医療機関や福祉施設との連携を密に行い、丁寧かつ迅速な対応にも心がけております。そして、一人暮らしの高齢者支援に特化し、決して独りにはしないとの思いで頑張っています。まだまだ至らない点ばかりでご迷かけすることたくさんあると思いますがよろしくお願い致します。

《日本基準寝具株式会社福山営業所【エコール】事業部》

日本基準寝具株式会社福山営業所【エコール】事業部と申します。

この度は府中地区介護支援専門員連絡協議会へ加入させていただくことになりました。今後ともよろしくお願いいたします。

エコールは、「いくつ歳を重ねても、住み慣れた地域で、安心して笑顔でくらせるサービスを提供し続ける」という理念のもと、福祉用具・住宅改修・生活支援サービスで在宅介護をトータルでサポートします。

福祉用具レンタルでは、半年に一度のアフターサービスのお約束と自社メンテナンスを強みとした高品質な福祉用具の提供を行っています。

手すり工事を中心とした住宅改修工事においては、自社で経験ある大工を雇用し自社施工を実現しています。現調から施工まで丁寧且つスピード感を持って対応しています。

